

放射収支を算出する方法に関し報告した。これはGARPに直接関係する重要研究である。雲の特性と放射観測の関連については、ソ連の Sonechkin, Malkevich, Kondratyev 等の論文、アメリカの Blau, Zirkind 等の論文が発表された。Montecarlo 法を用いた確率的方法が雲中の放射伝達の処理に応用されているのが注目された。

次に COSPAR 第6作業班及び事務打合せ会について簡単に述べる。例会においては主として各国の気象ロケット観測結果と、気象衛星の利用状況の報告があった。すなわちオーストラリア、ポーランド、パキスタン、ソ連等が報告したが特にソ連 Kosheikov は、南極および観測船からのロケット打上げによる南半球の上層観測の報告を行ない注目された。筆者は MT-135 P および綾里の気象ロケット基地開設に関し気象庁高層課の報告に基づき講演した。他に気象研三崎、村松、経塚等の

行なったオゾンロケット観測の結果、防災センター寺田所長と航空宇宙技術研究所武藤氏の開発している燃えつきるロケットの報告を行なった。燃えつきるロケットは地上の安全と直接関連する重要課題として、各国から非常に注目を受けた。気象衛星の利用面の開拓に関しては、ソ連で天気予報への応用、雷雨予報への応用に関して、それぞれ一篇ずつ報告があった他に、ソ連 Vinogradov は、一般に地質その他の地球科学への応用という大変一般的な講演を行なった。ちなみに次回 COSPAR は1971年6月アメリカ、シアトルで行なわれるが、第6作業班の主題は1. GARP への協力、2. Earth Survey 3. 衛星からの大気と水の汚染の観測 4. ブイ、5. 気象ロケット、6. 有人衛星の利用法等であるが、そのうち第2、第3の問題は気象衛星から派生する将来の重要課題として注目される。

〔地方だより〕

関西支部だより（日本気象学会関西支部）

○本年度の月例会および講演会のスケジュール

本年度開催予定の近畿地区における月例会、講演会は6月25日に行われた運営委員会でつぎのとおりきま

月 例 会

開催月	主 題	担当委員	所 属
9月	地方、現場での研究体制の将来計画	橋本清美	(大阪管地気象台)
10月	気 象 統 計	東 修三	(京都府立大学)
11月	局地気象現象(海陸風, 山谷風, 山越気流)	久保田利一	(彦根地方気象台)
12月	測 器	矢崎敬三	(彦根地方気象台)
1月	海上気象	川鍋安次	(舞鶴海洋気象台)
2月	中規模擾乱(集中豪雨, 集中豪雪)	今田 克	(大阪管区気象台)
3月	(予備)太平洋の雪	橋本清美	(大阪管区気象台)

講 演 会

開催月	主 題	講 師	所 属
11月又は12月	乱 流	光田 寧	京都大学防災研究所
1月	積雲対流	浅井富雄	京 都 大 学
2月	集中豪雨	二宮洸三	気 象 研 究 所

1970年9月

中国、四国地区月例会もそれぞれ年1回開催の予定である。なお、この運営委員会で、月例会の運営および月例会ノートの編集方針について協議したが、その結果、月例会ノートのうち「海上気象」「局地気象」は予稿集式に、「中規模擾乱」「気象統計」は従来どおりの形式で発行することになった。

○ 地域的気象事業の拡充ならびに研究調査の発展に関する要望賛成多数で可決

本年6月開催された支部総会において、昨年来継続審議になっていた議題の審議を行い採決の結果書面参加も含め賛成205、反対39で要望決議文が可決された。

この決議文は、直ちに大阪管区気象台長、気象庁長官に対して支部長名で要望した。

○ 支部内に秋季大会準備委員会を設置

本年の秋季大会が来る10月京都で開催されるので、この業務を円滑に進めるため、支部内につぎの構成メンバーにより秋季大会準備委員会を4月に設置し、すでに2回の会合をもち大会の準備を進めている。

準備委員長 青木

委員 山元、中島、東、先田、浅井(大学関係)

竹内、松本、檀上、橋本、稲浦、今井、三宇。(気象台関係)